

まだまだ サンダル！

今シーズンはメタリックやスケルトン素材を使った未来的でクールなテイストのシューズが登場する一方で、90年代に流行したプラットフォームのリバイバルブームがサンダルにも拡大。夏の定番・ウェッジサンダルは“厚底”の側面を大胆に装飾したタイプが人気を集めています。カラフルでポップな文字やドットのプリントものから、花やキラキラ光るストーンなどの立体モチーフをあしらったオブジェのようなシューズまで、そのバリエーションは本当に華やか！



こうしたインパクトのあるシューズを1足加えるだけで、シンプルな夏の着こなしもぐっとオシャレ度がアップします。さらに、高さのわりに履き心地に安定感があるのも見逃せないポイント。7cm程度のヒールなら歩きにくさもあまり気にならないのでは？脚を長くバランス良く見せるためにもぜひ取り入れたいアイテムです。

そして、夏の足元といえばもう一つ忘れてならないのがビーチサンダルですね。ブラジルの老舗ブランドのアイテムをハリウッドスターたちがこぞって履いたことから再注目され、“ビーサン”は日本でもファッションアイテムとして定着しました。リゾートはもちろん、コーディネートの外しに取り入れるタウンユースもすっかりポピュラーになっています。最近ではインソールにファーを敷いたラグジュアリー感たっぷりのタイプも登場するなど進化は続いているようです。

絵画の中の洗濯風景

フェナンの洗濯婦

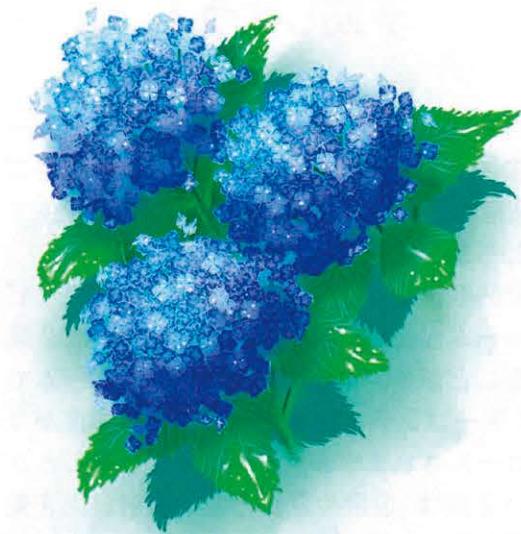


ウィリアム・アドルフ・ブルグロー (1869)

この絵は、ウィリアム・アドルフ・ブルグロー(1825-1905)の代表的な作品です。ブルターニュ地方にあるフェナンの農民の生活風景を描いています。中央の女性は洗い上がった洗濯物のバスケットを頭に乗せており、他の人々は洗濯の様々な段階の作業をしています。細部にこだわった写実的な表現は新古典派といわれるもので、中央の女性はギリシャ神殿の装飾を支える彫像にインスピレーションを得て、当時のフランス農民の生活をリアルに描いたものといわれています。

HomeDry News

ホームドライニュース No.97



ファッション・ワンポイント・まだまだサンダル！
絵画の中の洗濯風景：ファースナントの洗濯婦
衣類のケア講座：保管中のトラブルを予防しよう
衣生活の知恵：無添加洗剤の無添加ってなに？



衣類のケア講座 保管中のトラブルを 予防しよう！

冬物を残らずクリーニングしたら、次のシーズンまでクローゼットの中で長いときを過ごす。保管状態が悪いと思わぬトラブルが発生することもありますからご注意ください。

一般的な戸建て住宅の構造では、1階にリビングルームがあり、寝室やクローゼットは2階にあることが多いです。リビングルームでは、エアコンディショナーで温度や湿度がコントロールされますが、日中に人のいることが少ない2階は、屋根や窓から強い直射日光を受け高温多湿になります。高温多湿は大切な衣類の大敵です。

[特に綿製品にはカビが発生しがち]

空気中には、常にいろんな種類のカビの胞子が漂っています。それが何かに付着し、「カビの4大成育条件」と言われる、温度(20~25度)・湿度(80%)・酸素・栄養が揃うとカビ菌は、どんなこところでも繁殖します。カビ菌は、衣類に菌糸という根を張り、茎が枝別れして、その先に種になる胞子を実らせます。衣類についていたカビは、繊維の中に根を食い込ませ、繊維を分解して養分

とするのです。このことから、カビがついた衣類は、生地そのものが傷んでいるということになります。

天然繊維は、それ自体がカビの栄養になりますし、食べこぼしや汗や垢などの蛋白成分はカビにとって絶好のご馳走で、綿やポリ

エステルにも生えます。生地が養分として分解されますから穴あき、破れの原因にもなるのです。
[ポリウレタン加工品の劣化が促進されます]

ポリウレタン樹脂は、生地の表面に塗られて皮革調のデザインなどに使用されている場合と生地の間に塗られて、張りのある風合いを出しているボンディング加工があります。

* 製造から2~3年で劣化が始まるとされています。

写真はボンディングのポリウレタン接着樹脂が分解してしまった例で、ボンディング加工の樹脂が高温多湿の状態で保管されている間に劣化して溶解し、表面にシミ出してきたことによってまだらに変色してしまったケースです。

特に通気性のないポリ袋やカバーをかけたまま保管することは禁物です。



なるほど
納得！

衣生活の知恵

無添加洗剤の 「無添加」ってなに？



最近よく「無添加洗剤」ということを聞きます。ところで、従来の一般洗剤には、どんなものが添加されているのでしょうか？従来の一般家庭用洗剤のほとんどは、白い下着などの綿製品を洗うことを前提につくられ、これに効果的な助剤が配合されています。代表的な助剤は、「蛍光増白剤」「酸素系漂白剤」「酵素剤」などです。

ほとんどすべての繊維は、もともとやや黄色みを帯びているものです。これに「蛍光増白剤」による青紫の発光を加えると、黄色みが打ち消されて、目の錯覚で純白に見えるようになります。しかし、生成りや色物の製品では、逆に白っぽく汚染されることになってしまいますので、使用を避けてください。これらの蛍光増白剤等が配合されていない洗剤を無添加洗剤と呼び、色柄物にも安心して使えます。